

# 歴史的思考力の分類と効果的な育成方法

Categorization of Historical Thinking and Effective Training Methods

池尻 良平\* 山内 祐平\*\*

Ryohei IKEJIRI\* Yuhei YAMAUCHI\*\*

\*東京大学大学院学際情報学府

\*Graduate School of Interdisciplinary Information Studies, The University of Tokyo

\*\*東京大学大学院情報学環

\*\*Interfaculty Initiative in Information Studies, The University of Tokyo

〈あらまし〉 本研究では、先行研究の収集を通して歴史的思考力の分類と各々の効果的な育成方法について整理した。その結果、歴史的思考力は(1)史料を批判的に読む力、(2)歴史的な文脈を理解する力、(3)歴史的な変化を因果的に理由付ける力、(4)歴史的解釈を批判的に分析する力、(5)歴史を現代に転移させる力の5種類に分類できた。また、分類に沿った育成方法をメディア・課題設定・評価方法に分けて整理した結果、それぞれ異なる育成方法が必要なことが明らかになった。

〈キーワード〉 歴史学習、歴史的思考力、教育方法、マルチメディア

## 1. 背景と目的

近年、歴史学習における目標として歴史的思考力育成の重要性が主張されている。実際、1990年代以降には歴史的思考力の内実を明らかにする研究が多くされており、様々な種類の歴史的思考力が提唱されている。一方、ICT環境やデジタル・アーカイブの技術が進むにつれ、各々の歴史的思考力を効果的に育成するための方法論も多く開発されている。学校における歴史教育や歴史的思考力育成に関する研究の発展を考慮した場合、各々の歴史的思考力に対する効果的な育成方法を整理することは重要であると考えられる。

しかし、歴史的思考力の分類に沿った上で各々効果的な育成方法を整理している研究はない。そこで本研究では、先行研究の収集を通して、歴史的思考力の分類と各々の効果的な育成方法について整理することを目的とする。

## 2. 分類方法と先行研究の収集方法

歴史的思考力の分類を試みた初期の研究としては、Bell and David (1917)による歴史的な理解を評価する際の5つの段階的な分類がある。この分類は包括的である一方、特に史料を用いたり解釈をする段階の分類が粗いといえる。そこで、Wineburg (1991)によるエキスパート研究から抽出された4種類の歴史的思考力と、Seixas and Peck (2004)によるレビューを通じた6種類の

歴史的思考力を考慮した上で分類を行った。その結果、歴史的思考力は大きく(1)史料を批判的に読む力、(2)歴史的な文脈を理解する力、(3)歴史的な変化を因果的に理由付ける力、(4)歴史的解釈を批判的に分析する力、(5)歴史を現代に転移させる力、の5種類に分類できた。

先行研究の収集方法としては、海外の教育系の論文検索エンジン“ERIC”と日本語の論文検索エンジン“CiNii”を用い、「歴史的思考力”(“Historical Thinking”)で検索される論文を選定した。ただし、対象論文は査読付き、かつ1990年代以降の小中高校生を対象にしたものに限定した。それに加え、歴史学習の研究における著名な文献を適宜足す形で先行研究の収集を行った。

以上をもとに、歴史的思考力の5種類の分類に沿う形で該当する先行研究を分け、それぞれの歴史的思考力における育成方法を整理した。

## 3. 各歴史的思考力と効果的な育成方法の整理

### (1) 史料を批判的に読む力

歴史的思考力の最も基礎的なものは、一次史料と二次史料を区別し、情報のソースを調べ、書き手の背景を知る力である。この育成方法としては、デジタル・アーカイブを用いてより多くの史料が読める環境を構築し、論争的なテーマに関する史料をより詳細に分析するために「その文書は何を、

どのように、なぜ書かれたのか」という質問を行う課題設定が効果的である。

### (2) 歴史的な文脈を理解する力

史料から得られた情報を歴史的な文脈や背景に沿って正しく理解する力もある。この育成方法としては、当時の歴史的背景をより具体的に示せる日記や写真、オーラル・ヒストリーができる環境を用意し、様々な文脈的要素を盛り込めるストーリー構築型の課題設定が効果的である。

### (3) 歴史的な変化を因果的に理由付ける力

また、歴史的な変化の様々な要因を因果的な理由付ける力もある。この育成方法としては、探求的なテーマを設定した上で因果関係を構築させる課題を設定することに加え、複雑な歴史上の因果関係の構造を可視化するコンセプトマップを描ける ICT 環境や因果的な変化を可視化するシミュレーション・ゲームを用意し、認知的負荷を下げるのが効果的である。

### (4) 歴史的解釈を批判的に分析する力

また、歴史的解釈を批判的に分析し、新しい解釈と比較検討する力もある。この育成方法としては、様々な解釈を促せる史料を提供するマルチメディア環境を用意し、異なる2つの解釈が内在するテーマを提示した上で生徒の考えを書かせながら議論させる課題設定が効果的である。

### (5) 歴史を現代に転移させる力

さらに高度な歴史的思考力として、歴史上の社会的変化の因果関係を現代の類似した問題構造に応用するという力もある。この育成方法としては、歴史と現代の文脈的な相違点を意識化させつ

つ、アナロジー関係が可視的になる環境を用意し、歴史上の因果関係を利用して現代社会の問題解決を行わせる課題設定が効果的である。

## 4. 結果と課題

本研究では、歴史的思考力を5種類に分類し、先行研究の収集を通して各々に対応する効果的な育成方法を整理した。育成方法を「使用するメディア」「課題の設定方法」「評価方法」の3つの観点からまとめたものが表1である。その結果、5種類の歴史的思考力に対しては、異なる育成方法を用いる必要があることが明らかになった。今後の課題としては、5種類の歴史的思考力が相互にどう関係しているかの検討と、各々の育成方法がどう連続・統合できるかの検討が挙げられる。

## 参考文献

- Bell, J. C. and David, F. McCollum. (1917) A Study of the Attainments of Pupils in United States History. *Journal of Educational Psychology*, 8: 257-274
- Seixas, P. and Peck, C. (2004) Teaching Historical Thinking. In A. Sears and I. Wright (Eds.), *Challenges and Prospects for Canadian Social Studies*, 109-117
- Wineburg, S. (1991) Historical problem solving: A study of the cognitive processes used in the evaluation of documentary and pictorial evidence. *Journal of Educational Psychology*, 83: 73-87

表1 歴史的思考力の分類と効果的な育成方法

	歴史的思考力	使用するメディア	課題の設定方法	評価方法
(1)	史料を批判的に読む力	デジタル・アーカイブの利用、複数の史料	史料が書かれた意図に関する質問をする	史料の定義を記述させ、変化を分析する
(2)	歴史的な文脈を理解する力	日記、写真、オーラル・ヒストリー、アドベンチャーゲーム	背景知識を盛り込めるストーリーを作らせる	歴史的共感の5段階モデルに沿って、思考の段階を分析する
(3)	歴史的な変化を因果的に理由付ける力	コンセプトマップを描ける ICT 環境、シミュレーションゲーム	探求的な課題を課し、その因果関係を構築させる	因果的な論述問題の解答を多面性と具体性で分析する
(4)	歴史的解釈を批判的に分析する力	デジタル・アーカイブの利用、マルチメディア、複数の史料	2つの解釈が内在するテーマで議論を行わせる	議論内容の多面性を分析する
(5)	歴史を現代に転移させる思考力	コンセプトマップを描ける学習環境、歴史と対応する現代的要素をまとめた教材	歴史をアナロジーとして利用し、現代社会の問題解決をさせる	歴史的な事象と類似する現代的な事象を記述させ、量と質を分析する